

令和2年度 第1回掛川市総合計画審議会 議事概要

日時	令和2年11月9日(月) 15:00～17:00
会場	掛川市役所4階 会議室1

■出席者（敬称略）

No	氏名	所属・役職等	出席状況
1	日詰 一幸	国立大学法人 静岡大学 人文社会科学部長	出席
2	小川 雅子	公益社団法人 大日本報徳社 主事	出席
3	幸田 拓也	日本電気株式会社 PS ネットワーク事業推進本部 国内スマートシティグループ	出席
4	齊藤 奈津子	島田掛川信用金庫 地方創生室 副室長	出席
5	鈴木 緑	掛川市社会教育委員会 委員長	出席
6	須藤 みやび	一般財団法人 静岡経済研究所 主任研究員	出席
7	高橋 由利子	静岡県くらし・環境部県民生活局男女共同参画課 課長	出席
8	垂門 涼子	ソフトバンク株式会社 東海 IoT エンジニアリング本部 東海 IoT 技術部 部長	出席
9	長濱 裕作	NPO法人 かけがわランド・バンク コミュニティマネージャー	出席
10	星之内 進	一般社団法人 中東遠タスクフォースセンター 理事長	出席
11	増山 達也	有限責任監査法人トーマツ ディレクター	出席
12	宮地 紘樹	医療法人社団 綾和会 掛川東病院 院長	出席
13	村上 文洋	株式会社 三菱総合研究所 主席研究員	出席
14	山本 たつ子	社会福祉法人 天竜厚生会 理事長	出席
15	山本 美鈴	株式会社 山本製作所 専務取締役	出席
16	横地 静雄	掛川市地区まちづくり協議会連合会 会長	出席

発言者	発 言 内 容
1 開 会	
2 委嘱書交付	
3 会長及び副会長の選任について	
	会長：日詰一幸 副会長：星之内進
4 市長あいさつ	
市長	<p>本日は、お忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。また、この度は、総合計画審議会の委員にご就任いただき、重ねて御礼申し上げます。</p> <p>第2次掛川市総合計画につきましては、令和の時代を迎え、今年3月に、SDGs や人生100年時代構想の観点を加えて改定を行ったところであります。しかし、新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、社会環境や経済状況、そして人々の生活や価値観にまで大きな影響を与える中、掛川市においても、ポストコロナ時代に向けたまちづくりを検討する必要があると考え、総合計画の改定を行うこととしました。</p> <p>この10月には、企画政策課内に「ポストコロナかけがわビジョン検討室」を設置し、既に2回の「庁内策定委員会」を開き、改定の方向性などを検討して参りました。今後は、審議会でご審議いただくとともに、庁内での検討を重ね、パブリックコメント等を実施し、今年度中には基本構想を改定する予定であります。この審議会におきましては、ポストコロナ時代の掛川市のまちづくりの方向性について、20年後の掛川市を見据えながら、ご意見を賜りたいと考えております。委員の皆様のごこれまでのご経験や専門的な見地から、活発なご議論をご期待申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。</p>
5 議 事	
会長	<p>ただ今、会長を仰せつかりました日詰でございます。</p> <p>昨年の総合計画の審議会でお世話になりましたが、このコロナ禍の中で社会環境が大きく変化したということもございまして、新たにまた基本構想を見直すという非常に大きな役割を、この審議会を持つことになりました。各界の皆様にお集まりいただいておりますので、大変充実した審議ができるのではないかと考えております。何分にも私自身は掛川市の住民でもございませませんが、掛川市のこれからの大きな発展のために少しでもお役に立てればと思っております。何卒、この総合計画の策定が終わるまでよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、早速議事に移ります。まず、1つ目「第2次掛川市総合計画の改定に関する基本方針について」、事務局の説明をお願いします。</p>
議事1：第2次掛川市総合計画の改定に関する基本方針について	
事務局	〈資料1 説明〉
会長	ただ今の説明の中で、何かご不明な点やご意見がありましたらご発言いただければと思いますがいかがでしょうか。
委員	<p>素晴らしい基本方針だと思いますし、この社会状況をこんなに早く捉えられている自治体は他にいらっしゃらないのではないかと考えております。</p> <p>その中で、「デジタル化の推進」という言葉、こちらについて、ぜひ皆さんとディスカッションしたいと思っております。私はテクノロジーの会社ですけれど、デジタル化</p>

発言者	発言内容
	を目的としてはいけないと思っています。なぜデジタルを活用するのか、そのメリットは何なのか、そこをしっかりと戦略・企画の中に表現していくのが良いのではないかとと思っています。
会長	「デジタル化の推進」、言葉だけではなくて、それが実際にどのような形で掛川市の中で展開されていくのかという戦略的なところまで踏み込んでやっていく必要があるということだと思いますが、それにつきまして何かございますか。
委員	デジタル化・テクノロジー化と色々なところで書かれていますが、視点2に「選ばれるまちへ」ともあります。デジタル化・テクノロジー化となると、人と人とのつながりが薄くなり、そうなる、「選ばれるまち」というのがなかなか難しい状況になるかと思っています。デジタル・テクノロジーという言葉はコロナの時代に大切なことだと思いますが、人と人とのつながりの部分を入れていただけると良いと思います。
委員	私自身は、全国の自治体でDXやIOT、今はコロナなのでリモートで各自自治体の方と議論しながら推進をさせていただいています。できれば掛川市においても、いかに掛川らしいDXの推進の仕方ができるのか、具体化に踏み込んで、具体的な事例をもって、産業経済分野の振興について意見させていただきたいと思っています。
会長	今3人の方からデジタル化についてご意見が出て参りましたが、事務局からコメントがありましたらお返してください。
事務局	デジタル化の推進につきまして、戦略的にというお話をいただきましたが、今後組織を作りDXを含めた具体的な協議をして参りたいと考えております。 また、選ばれるまちとしては、東京からの地方分散の流れの受け皿となるような施策を考えて参ります。
委員	今、コロナの中で総合計画の見直しをするという判断は、すごくいいことだと思います。ぜひ、コロナで大きく変わった社会条件を踏まえた計画づくりに、少しでも貢献できればと思っています。 今、人口が東京から掛川へ向いてくるというお話がありましたが、特にしなければいけない議論は、1つ目はコロナで地方分散が起きるということはどこにも証明されていません。起きるのではないかとされているだけで、起きることを前提に施策を作るのではなく、積極的に活用できるものをどうしたらよいか、地方分散が起きないということに注意しておいた方がいいです。 2つ目は、前回の総合計画の議論にもありましたが、日本の人口は2015年から2040年の25年間で、約14.7%、1,500万人減ります。その中で、掛川は2020年から2040年に人口は減らない、むしろ増えるという目標を立てています。悪くありません。ただ、人口は非常に増えている高度成長期においては、どうしたらよいかという目標を立ててそれに合わせて進んでいきますが、今は日本全体が人口減少、掛川もそうです。そうした中で人口が減らないということは、相当な少子化対策を打たないとできません。基本構想の中で掲げている少子化対策というものは、抽象的でありかつ従来と代わり映えのない表現になっています。ここはもっともっと力を入れて、それこそ他にない掛川独自の差別化をするという部分になりますので、もっと挑戦してほしいかなと思います。

発言者	発言内容
委員	<p>視点1の「包摂的な」という表現と、視点3の「誰もが恩恵を受けられ」という部分に反応しております。概要にも「格差の拡大」という言葉がありましたが、男女共同参画の立場から言いますと、今はより女性に負担かかって困難が生じていると色々な場面で言われています。「包摂的な」という時に、どういう方を具体的に対象としているのか、「誰もが」の中身についても、具体的に計画の中で読み取れるようにしていくと思います。</p>
事務局	<p>掛川市には自治基本条例というものがあり、「市民等」には、そこに住んでいる方のほか、掛川に勤めている方や学生など関係する全ての方を含んでいます。「包摂的な」は、特に弱い立場の方、例えば外国人の方、障がい者の方、女性で問題を抱えている方などを考えております。</p>
委員	<p>「包摂的な」というところだと、掛川市の高齢化率は約28%で全国平均に近いのですが、DXと高齢化はかなり相性が悪いところがあり、DXを進める中で高齢者が取り残されていくというリスクがありますので、そのあたりを皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。また、「選ばれるまち」というところでは、掛川が選ばれたその後、掛川だけが人数が増えればいいのかというところ、それでは日本は救われなと思いますので、ぜひ選ばれた先にも、日本にインパクトを与えられるようにしてほしいと思います。</p>
会長	<p>掛川市だけでなく、中東遠全体がよくなる、その中に掛川市があるということですので、そういった視点を大事にしていきたいと思っています。</p> <p>皆様、ありがとうございました。</p> <p>それでは、次の基本構想の改定について、事務局の説明をお願いします。</p>
議事2：第2次掛川市総合計画基本構想の改定について	
事務局	<p><資料2 説明></p>
会長	<p>基本構想の第1～3章は大きな変更はないということですが、まずはこちらについて、何かお気づきの点がありましたらお願いします。</p>
委員	<p>先ほどデジタル化は目的ではないとコメントさせていただきました。デジタル化を進めるというのはそのとおりなのですが、私は今後、デジタル化は自然的に浸透していくものだと思います。ですので、ここでは言葉の問題ではありますが、「デジタル化の浸透に合わせて」とか、「デジタルの普及に合わせて」という表現に変えていくことも検討していただきたいと思います。ご提案ではありますが、具体的には9ページ(1)⑤は「デジタル化の浸透に合わせた新しい教育・文化スタイルの推進」になるかと思います。デジタル化はもう当たり前のように進んでいますので、むしろこの環境に合わせた教育や文化スタイルを推進していくということになるかと思います。デジタル化を普及するのではなくて、デジタル化という世界に合わせて、新しい教育・文化スタイルを推進していくという表現がふさわしいかと思います。</p>
会長	<p>9ページへのご提案、ありがとうございました。</p> <p>皆様の話がだんだんと戦略の中身の話に入ってきましたが、もし先に2～5ページの第1～3章で何かありましたら、お願いしたいと思います。</p>
委員	<p>4ページの人口について、少子化対策において具体的な方策を掲げていくのがよい</p>

発言者	発言内容
	かと思いますが、もっと重要なのは、人口減少社会へ移行すると、行政職員も減らすという方針があり、総務省の構想では、2040年には今の半分の行政職員で行政課題に取り組むということが提言されています。行政職員が今後どうなるかという話を前提条件として持っていた方がよいかと思います。
会長	この計画では、人口は維持するということではありますが、あわせて行政職員の削減の問題について、なかなか書きづらい事項だとは思いますがいかがでしょうか。
事務局	行政職員数につきましては、計画を作っており、今後、見直しをかけていく予定ですので、今のご提案につきましても検討して参ります。
会長	そのほか、第1～3章についてはよろしいでしょうか。 続いて、6ページの第4章について、戦略目標、「3つの日本一」につきましてはいかがでしょうか。
委員	私は掛川市の教育情報化の検討会にも参加しており、GIGAスクール構想をはじめ検討をされていますが、教育については書かれている9ページ(1)について、ここに書かれていることが抽象的で、具体的にどうしていくのかが見えない気がします。今、世の中で起きていることは、学び方も教え方も家庭とのコミュニケーションもガラッと変わろうとしています。もう少し広い視野で書かれた方ではよいのではないかと、この表現では、ただ単にデジタル化するだけのように見えてしまうのではないかと思います。
委員	今回のコロナ禍で実感したのは、人間らしさとは何かということでしたが、コロナによりデジタル化の推進ということが言われるようになり、人と人とのつながりがどうしても希薄になってしまっていると思っています。デジタル化はもちろん推進しますが、一方で人間らしさというか、心の豊かさが大切になるか思います。 9ページ(1)⑤に「本物の体験」という言葉がありますが、この「本物」とは、実際に体験することなのか、質的に「本物」のことなのか、わかりにくいのと、市民から見ると少し上から目線に見えてしまう気がします。ここで示す「本物」とはどのようなことなのか、お伺いします。
教育長	教育委員会では、デジタル化の関係で、情報教育推進計画の見直しを進めています。学校教育現場と行政とのギャップもあります、家庭まで巻き込んで進めるとなると、幅広い視野で捉えなければいけないと考えているところです。 「本物の体験」については、リアル・実際にそこでという意味と、物として「本物」の両方の意味を含めています。
委員	9ページの教育・文化分野に、ぜひ、「市民総ぐるみの教育」というキーワードを入れていただきたいと思います。子どもたちの学びの中でネットを活用して学ぶということはとても大切なことですが、ネットでつながっていても、子どもの育ち、学び、感性ということを考えると、対面で認められたり励まされたりということがとても重要になってきます。「市民総ぐるみ」というのは、文科省が、地域と学校が連携して子供たちをともに育てていくということで進めています。掛川市は学校地域支援活動からはじまり、今では学園化構想として進めています。国や県は「地域総がかり」と言っていますが、「地域ぐるみ」は掛川の独特の言い方で大変特徴的なことですので、掛川

発言者	発言内容
	市が全国に先立って、例えば、東京から掛川に移住したいと思った時に、掛川は「地域ぐるみで子どもを育てています」というと安心して来たいと思いますので、ぜひそのような言葉を計画の中に入れていただきたいと思います。
教育長	学園化構想については、色々な見直しをしております。「市民総ぐるみ」は、学校でできること、地域でできること、行政でできること、それぞれの役割をしっかりと明確にして、「市民総ぐるみ」ということを改めてわかりやすく示し、新しい学園化構想を検討していきます。
会長	それでは、8・9ページの(1)教育・文化分野、(2)健康・子育て・福祉分野でご協議いただければと思いますがいかがでしょうか。
委員	私は掛川へ来て1年少しの新参者ですが、どんどん掛川を好きになっている立場から、(1)③「掛川らしい文化」の「掛川らしい」は具体的にどのようなものを指すのか、ご教示いただければと思います。ずっと掛川に住んでいる方にとっては何か共有していることなのか、そんな中でも色々な方が掛川に関わって行く中で、この「掛川らしい」というのはまちを推進していく力になっていくのではないかと思います。
事務局	「掛川らしい」としては、例えば最近ではかけがわ茶エンナーレという芸術祭を開催していますが、ここでは広く、報徳の関係、茶文化の関係等、諸々の文化を含んでいます。ただ、「掛川らしい」は色々な捉え方があると思いますので、表現を検討させていただきます。
委員	掛川らしい文化として、報徳の関係で、倉真では去年170周年の記録を残すということをしました。報徳の教え、生涯学習の教え、その辺が掛川らしさと言えるのではないかと思います。
委員	報徳が今、皆さんにどのように伝わるかは、シティプロモーションの観点もありますし、SDGsはまさしく報徳だと思っております。これからどういった表現で掛川を、掛川らしいということをPRしていくのかは、報徳に限らず、掛川が根本的に、土台としている何かを見つけ出していく必要があるのではないかと感じています。
委員	報徳の話は色々な方から聞かせていただいていますし、私自身がこの土地に来て、色々な多様性を受け入れる土地柄だということにも非常にびっくりしております。外から色々な方が来た時も、かなりの方に気に入っていただけるということで、中に対して発信していくということとは別に、外に向けてどう発信していくのか、掛川にはいい所がたくさんあると思いますので、この掛川らしいということを皆さんで共有して発信をしていくと今後のよい関係につながっていくのではないかと思います。
会長	発信の仕方、そのあたりをもう少し工夫されると、もっと掛川らしさについて色々な方が興味関心を持たれて、掛川への思いにつながるのではないかと思います。このあたりで、他の委員さんはいかがですか。
委員	私も掛川が大好きですが、掛川は土台・ベースがしっかりできていると思います。ポストコロナだからということだけでなく、ここで改定するならぜひ反映させていただきたいと思ったことは、(6)の協働に関わるようになりますが、掛川市は各分野における女性の活躍が、県の平均よりもはるかに上回っているデータをたくさん持っています。それが、現在の総合計画の中では埋もれてしまっていて、そういうすば

発言者	発言内容
	<p>らしいことがあるということあまり表現できていないと感じます。例えば、健康・福祉・子育て分野、教育分野のところでもうまく表現することで、この計画自体が発信力を増すのではないかと思います。</p> <p>それからもう一つ、掛川市の総合計画ではSDGsの観点をしっかりと持っていて、総合計画冊子132ページから「SDGsと基本計画との対比一覧表」がついています。ただ、これを拝見した時に、SDGsの目標に基づいているはずなのですが、計画上はいまいな表現になってしまっているため、SDGsの視点を持った計画ということ表現すると、総合計画としてよりよいと思います。</p>
委員	<p>9ページ(1)⑤の言葉で、目的と現実の表現が逆転してしまっているのが気になります。人と人が直接関わり合うことで豊かな経験と心を推進することが主目的であって、デジタル化は手段ではないかと思ったのですがいかがでしょうか。</p>
教育長	<p>そのように捉えられる表現だと思いますので、検討します。</p>
会長	<p>この分野については、ありがとうございました。</p> <p>それでは、10・11ページの(3)環境分野、(4)産業・経済分野についてはいかがでしょうか。</p>
委員	<p>前回の総合計画の審議の中でも、産業の問題が課題となっていて、もう少し総合的な戦略が必要だという議論があったかと思います。今回一番気になるのが、財源の不安・不透明性が非常に高まっている中で、新しい視点として「地域循環」というのはいいと思います。ただ、財源の関係に対してもう少し具体的に、市民生活が安定して豊かな掛川市になって人口が増えて市民税が増えるのはいいことですが、それでは法人税はどうするのかといったときにあまり見えません。変革するとか新しいことに対しては書いてありますが、既存の、今現実の掛川市にある製造業は見捨ててしまうのか。</p> <p>もう一つの視点は、新しい循環を考えて活性化するのはいいのですが、循環すべきは地域の資源なのか、情報や技術はまさしく新しい資源で、そういうことをもっとやる産業の在り方を考える必要があります。そして、3つの日本一の中から、例えば、環境が日本一を目指す中で地域産業にどのような影響を与えるのか、福祉や教育でも色々なことが考えられます。3つの日本一がそれぞれではなく、それらが相互に好影響をもたらすという考え方も必要ではないかと思います。</p>
会長	<p>今3つの視点からご意見をいただきました。財源への対応がきちっとできているかどうか、地域内循環を考えるときに新しい取り組みと既存のものとのつながりはどうか、3つの日本一がそれぞれどう影響するのか、という点です。</p>
副市長	<p>(3)(4)の表現はもっといいものにできると思っています。特に産業については、苦しい環境にいる企業に対してどうするのか、掛川市の財源見通しも芳しいものではないかと思っていますが、どのように表現していくか知恵を絞りたいと思います。</p> <p>(4)は、昨年掛川西高の生徒さんとワークショップをする中で、ホスピタリティを大事にしようという提案をいただいていたこともあり、この文章の中では色々なことを表現しようとしているので、これからよく検討していきます。</p> <p>環境日本一については、どのように地域に還元していくのか、地域新電力会社につ</p>

発言者	発言内容
	<p>いては整備したところですが、もし具体的なお意見があればお願いします。</p>
委員	<p>(4)産業・経済分野に関しては、今回コロナの影響で大きく変わる可能性がある、変わるべき部分だと考えています。具体的には、在宅勤務というこれだけ壮大な社会実験が行われて、リモートワークの可能性が高まる中、これが何につながるのかというと、リモートワークの推進と兼業・副業の推進を大きなキーワードとして捉えています。例えば、移住はそんなに簡単ではないです。家族の勤めの問題や、学校の問題があって、家族ぐるみで引っ越してくるのはそんなに簡単なことではありません。しかし、例えば東京や北海道に住んで、掛川の会社で週に数日働くということは可能になりました。今までは働く場所と住む場所はセットでないといけなかったのですが、今は住みたいところに住み、働きたい会社で働くという、住むと働くという関係が希薄になってきています。それを最大限に活かして、例えば掛川に住みたい人は掛川に住んだまま東京の会社あるいは海外の会社で働く、逆に掛川出身で今は違うところに住んでいて引っ越しはできないけれど掛川のために役に立ちたいという人はリモートワークで掛川の仕事を、そういう自由度が増したので、働き方に関しては大きな変化が生まれようとしています。それをもっと入れて、今後の人材不足に対して掛川が乗り切る、日本全体で人材の最大限の有効活用に取り込む、海外人材の有効活用を図るといった観点で、今後の掛川の人材確保の一步を踏み出すのではないかと思います。</p>
会長	<p>コロナ禍やポストコロナを考えた時に、働き方の変化は大きいです。リモートワークが取り入れられ、今までのような勤務形態でもなくなり、兼業や副業も進んでいます。住む場所も変えられて、働き方の自由度が非常に増しました。</p> <p>掛川市として、そのあたりの今後の展望はいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>おっしゃる通り、リモートワーク等で東京と掛川の距離が近くなって、居住と仕事が一体化する状況になっていると思います。人材不足への対応、この計画ではそこまで踏み込んで考えていなかったもので、取り入れていきたいと思っています。</p>
委員	<p>大きく2点あります。1点目に、ワードの中にワーケーションという言葉を入れていただければと思います。今、多くの方がワーケーションをしているという実感があります。休みの日には掛川でお茶を飲んで楽しみ、仕事は仕事として割り切ってやっていく、打ち出し方によっては可能性があるのではないかと思います。観光と移住の話ですが、観光はなかなか回復しないですし、移住は非常にハードルが高いです。関係人口を増やす議論の1つとして、ワーケーションの議論が必要かと思います。</p> <p>2点目に、基本構想の見直しとともに、裏側にある実態として、支援機関の設立を検討いただけないかと思います。DX もリモートワークも結局、推進するのは人なので、やり方がわからない人に対して指導する人間が行政側にいるべきではないかと感じています。具体的には、掛川市の製造品出荷額は、上下に富士市と牧之原市がいますが、牧之原市は産業・地域活性化センターを立ち上げましたし、富士市も f-Biz の後の産業機関をどう設立するかという話になっています。海外支援を含めた産業育成の支援機関があって初めて中小企業の育成が進んでいく、これは人口が多い少ないに限らず、そこに視点を持った人間が地元において指導することで地元が伸びることを目</p>

発言者	発言内容
	の当たりにしています。基本構想は言葉の問題ですが、その実態として、売り上げをあげるための仕組みづくりをセットで取り組んでいただけたらと思います。
産業経済部長	ワーケーションという言葉についてですが、サテライトオフィス等色々な言葉があります。今回は「柔軟な働き方」という言葉になっていますが、中小企業推進計画も大きく見直しをしているところですので、今後の計画については色々な言葉を入れていく予定です。また、支援センター的な組織も必要だと検討しておりますので、ご提案いただいたような手法を今後率先してやっていきたいと考えています。
委員	(4)⑤「世界に誇れる茶業の推進」については、残念ながらなかなか苦戦している企業が多い状況です。「世界に誇れる茶業」について、抜本的な改革、具体的な施策を教えていただきたいと思います。
産業経済部長	茶業は、農業者や茶商等、掛川市には関係者が多いので特筆して出しています。「世界に誇れる」ということですが、既に海外に出している有機茶もあり、色々な認証を取りながら少しずつ拡大をしています。市内ではありませんが、工場を建てて取り組んでいる企業もあり、お茶振興計画についても現在見直しをかけており、有機栽培を含めた世界に向けた計画を策定中です。
委員	掛川市の強みとして経済という点から見ますと、たくさんの企業が広く集積していて、とても稼ぐ力があるところが、他の市と比べても強みだと思います。今後どうやって行くかが重要ですが、既に掛川市が持っている資産、産業、そして掛川にいらっしゃる企業が既にいい循環を作っていると思います。ですので、せっかくあるので、既存の資産を更に持続し活かしていくという工夫をぜひ入れていくと、より一層強くなっていくのではないかと思います。
会長	先ほどからも話がありますように、既存の資産・インフラがあるので、そういったものをうまく活かしていくという視点も大事ですね。
産業経済部長	当市の製造品出荷額は、1兆1,100億円、これは島根県や秋田県に1県分にあたります。掛川市は、企業城下町ということでなく、色々な分野の製造業があり、色々な分散をしています。中小企業推進施策の中で今後どういった形で支援していくか、また計画としてはどのように表現していくか、世界につながるという表現も含めて、具体的に言葉に載せていけたらと思います。
委員	(3)環境について、現在書かれている表現を見ますと、間違いはなく重要なことですが、どこの市町でもやっていることで、掛川らしさが見えません。環境日本一の掛川市として、20年というスパンで見た時、市民がどう関わるかという視点、自助・共助・公助の視点が必要だと思います。環境も自助だけではできず、例えば、太陽光の電気が余ったら隣の家で使う、ごみの回収と高齢者福祉を関連付ける等、いわゆる共助をしながら全体として使うということです。協働のまちなので、環境に対するネットワークがしっかりしているまちとして、市民や事業者が自分は何をしていくのかわかりやすく表現されるといいと思います。
協働環境部長	二酸化炭素の排出量 2050年のゼロという大変な目標であり、地域新電力会社を作ってそれに向かっていく最中ですが、具体的な施策としてわかりやすい表現にしていきます。

発言者	発言内容
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、12・13 ページ(5)安心・安全都市基盤分野、(6)協働・広域・行財政分野について、ご意見・ご質問はいかがでしょうか。</p>
委員	<p>(6)協働・広域・行財政分野は非常に重要だと思います。中でも、行政内部のデジタル完結を進める必要があると思っています。定額給付金においても、手続きの入り口だけデジタル化しても、内部業務がデジタル化されていないと、かえって手間がかかったりスピードが遅れたりすることを皆さんご経験したと思います。入口から出口まで全部デジタルで対応できることが、今後何があっても対応できる最大のポイントとなりますので進めるべきだと思いますし、それをやることによって市民サービスも向上します。デジタル化で完結していれば、サービスは向上して行きます。それから、大きいのは、内部業務がデジタル完結すると、行政職員のリモート環境が整うようになります。これに、副業・兼業を組み合わせると、例えば掛川市の職員が週2日、県外の企業や自治体で働くことができる、逆に企業の方が掛川市の職員として働くことができるようになります。これは、優秀な人材を獲得するとともに、市の職員は市役所に閉じがちなのもっと広い視野を持って経験を活かして行政に活かすということ、人材を育てるためにも重要だと思います。</p> <p>加えて、(5)の災害についても、リモートワーク環境が整っていると、全国の自治体職員から支援を受けることができますし、逆に掛川以外で災害が起きた時に、掛川市の職員が支援をすることもできます。デジタル環境は非常に重要だと思いますので、ぜひ推進していただきたいと思います。</p>
企画政策部長	<p>自治体のデジタル環境、定額給付金も大変でしたので、人材不足、市民サービスの向上のために、今後の計画に盛り込んでいきます。</p>
委員	<p>今回のコロナで、特に社会福祉事業者として、自分たちではどんなに努力してもそれを防ぐ限界があると痛感しています。コロナに対しての対応、感染症の対策、新しい生活様式や3密を避けるということを、市民ぐるみで徹底していくことが重要だと思います。現場で働く職員をサポートするのは、市民がしっかりとそういったことを理解し受け止め協力して行くことがとても重要だと感じていますので、どこかに入れていただきたいと思います。</p>
危機管理部長	<p>今後大きな災害があったときにも対応できなくなりますので、ふだんから生活様式を変えるということが必要だと思います。</p>
委員	<p>「協働と連携により誰もが支えあう」はすばらしい言葉だと思います。私もテレワークをする中、まちづくりを進めるのは住民だけでいいのか、他にも関わる人がいるのではないかと考えます。「関係人口の増加」という言葉がありましたが、観光や移住に来る人だけではなく、月に1回、週に1回でも、何らかの形で掛川市のまちづくりに関わる、そういった方々も対象として関係人口を広げていくのが良いのかと思います。実際に掛川市に行かなくも、掛川のお茶を飲んだり、葛布の商品を買ったり、色々な関わり方があると思いますので、色々な関わり合いを広げていくのが重要かと思います。</p>
企画政	<p>掛川市でもシティプロモーションの推進とともに、テレワークを含めて、関係人口</p>

発言者	発言内容
策部長	を増加させることを検討していきます。
委員	(6)②「広域連携や官民連携の推進」の中で、具体的な活動を入れていただければいいかと思います。
委員	(5)①感染防止対策、ポストコロナという面で見ますと、これまでは備えあれば憂いなしということで、それに対する対策をしっかりすれば対応できるというのがプレコロナの時代でした。しかし今後、ポストコロナ時代は未知、わからないことが起こるということを前提に対応していく必要があります、十分な対策の必要もありますが、自分たちも変化して対応していくという文化が、こうした未知の環境に必要なことではないかと、医療従事者の中では痛感しているところです。
会長	知識の問題もあり難しいところではありますが、意識を変えていくということも必要だということですね。
健康福祉部長	大切なのは、新しい生活を徹底するという意識であり、市民の皆様にも伝えていきたいと思います。
委員	戦略の前文で、「格差の拡大や社会の分断」という非常に深刻な表現で現在を分析しながら、この審議会ではとても前向きで、新たな世界を切り開いていこうという明るい未来が見えるような議論になってきていることに、参加しながら驚いています。ただ、リモートで仕事ができるのは、社会の中でも環境に恵まれた人たちで、市民の中には困窮しているという方たちも実際にいるので、議論と市民の実際ということを見ると、この議論だけでいいのかなと思わないこともないところです。そのような中で、(6)「誰もが支えあう」というのは、市民それぞれ皆さんが役割を持つということだと思いますので、どういう方がどういう形で支えになれるのか、支えてもらえるのかを、もう少し肉声で表現することでよい計画になっていくのではないかと思います。
企画政策部長	「誰もが支え合う地域社会」というのは、掛川市自治基本条例の前文に、掛川市のまちづくりの根本として記載している事項です。色々な方がいらっしゃるという前提で、行政として取り組むべきことをこれからしっかり検討していきます。
会長	ありがとうございました。 その他全体として、いかがでしょうか。
委員	11 ページ(3)のエネルギーについてですが、先日、小田原の報徳電力と湘南電力を視察した時に、エネルギーのことはどうしても自分のこととして感じられない、遠く感じてしまうという市民の方が多くいらっしゃいましたが、大手の電力会社ではなく地元の電力会社から電力を買うことで地域に循環していく、その1割でもいいから地域に回していくという話を聞きました。(3)③「エネルギーの地産地消」という言葉で、市民もエネルギーを作ったり使ったりということ表現しているかと思いますが、市民が自分のこととして実感できる表現、循環の中に自分がちゃんとして、地域にお金が回っていくということがわかるよう表現が大切かと思いました。
協働環境部長	色々な良い事業をやっても、私には関係はないという市民が多いと意味がなくなってしまうので、取り組みをいかに周知していくかを検討していきます。
委員	13 ページ(6)「誰もが支えあう地域社会」の部分ですが、できれば市民の方にもう

発言者	発言内容
	<p>少し身近な言葉で、例えば、相互コミュニケーションによる環境づくりですとか、行政情報の開示といった表現を取り込んでいくことで、市民のための取り組みにつながると思います。</p> <p>それから、11 ページ(4)③「世界につながる活力ある産業」について、世界を盛り込んだ大きな構想ですが、①「観光客や移住者等の関係人口等の増加」についても、海外の方など多様な人材交流や、世界につながるシティプロモーションという意味で関わってくると思います。</p>
会長	<p>皆様ありがとうございました。そろそろお時間になりましたが、まだお気づきの点もおありかと思しますので、よろしければ事務局へお寄せください。</p> <p>以上をもちまして、本日の議事は終了といたします。</p>
6 その他	
事務局	<p>ご審議ありがとうございました。本日は限られた時間となりましたので、委員の皆様よりその他にもご意見・ご提案等ございましたら、ぜひ事務局へお知らせいただけますと幸いです。</p>
市長	<p>2時間みっちり意見交換をしていただきました。コロナの問題、本当に世の中が大きく変わっていくという今の段階で、行政が何をすべきかというご意見だったかと思えます。まだ、しっかり詰めたものができておりませんが、今日の意見をしっかり把握をして、分析をして、次の議論で更にどんなことをしていきたいかを示していきたいと思えます。掛川市は、内閣府から SDGs 未来都市の認定を受けました。そういう意味では、持続可能な社会をどう築くか、誰も取り残さない社会をどう作るか、そういうことをこれから更に進めていかなければいけないのですが、その時に、デジタル化をしっかりと進めるのと同時に、デジタル化にどう対応していくかが求められていることだと思えます。特に行政としては、デジタル化がどんどん進むけれど、そこから残された人たちをどのようにきっちりとフォローしていくか、それが大変大きな役割の1つだと思えます。ただそれだけではなく、未来の掛川市の発展、これからの子供たちのために、デジタル化をどう活用して進めていくか、そういうことも求められていると思えます。</p> <p>今日は本当に色々な意見をいただき、改めてもっとしっかりやらなければいけないと私だけでなく、ここにいる皆がそういう思いになりました。これだけ真剣な議論、ご意見をいただき本当にありがとうございました。</p> <p>次回も更にがんばっていききたいと思えます。ありがとうございました。</p>
事務局	<p>第2回目の審議会は、12月11日を予定しております。次回の審議会では、本日ご審議いただきました内容をもとに、基本構想の素案を提示させていただく予定ですので、それについてのご意見をいただきたく存じます。</p> <p>以上をもちまして、本日の審議会を閉会といたします。本日は、誠にありがとうございました。</p>
7 閉会	